

2017年（平成29年） 10月27日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

10/12~10/18のNYMEX・WTIは、50.60~52.04ドルの範囲で堅調に推移した。

10月19日は、新たな材料に乏しい中、持ち高調整や利益確定の売りが先行し、5営業日振りに反落した。11月限の終値は前日比0.75ドル安の51.29ドルだった。

週末20日は、イラク政府軍がクルド人自治政府との係争地キルクーク帯を制圧したと発表、キルクーク油田からトルコの出荷基地ジェイハン港を結ぶパイプラインの稼働が通常時の日量60万バレルから同22万バレルに低下したとの報道もあり、地政学リスクの高まりから、反発した。ただ、週末の持ち高調整・利益確定の売り、ドル高・ユーロ安進行に伴う割高感もあり、上値は重かった。11月限の終値は前日比0.18ドル高の51.47ドルだった。

週明け23日は、週末から続く地政学リスクの高まりに加えて、20日のペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は736基（前週比7基減）で3週連続減少との発表もあり、わずかに続伸した。キルクーク油田減産を補うため南部バスラからの輸出量を日量20万バレル増加させるとのイラク石油省の発表が上値を抑えた。この日から中心限月となった12月限の終値は前週末比0.06ドル高の51.90ドルだった。

24日は、この日のサウジのファリハ・エネルギー相の協調減産強化に前向きな発言やこの日夕刻と翌日朝の米国官民の原油在庫週報の取り崩し予想を背景に、3営業日続伸し、4月17日（52.65ドル）以来、半年振りの高値を付けた。12月限の終値は前日比0.57ドル高の52.47ドルだった。

25日は、EIA米国原油在庫週報の市場予想に反した積み増し報告、前日の反動の利益確定売りなどで、4営業日振り

で反落した。12月限の終値は前日比0.29ドル安の52.18ドルだった。

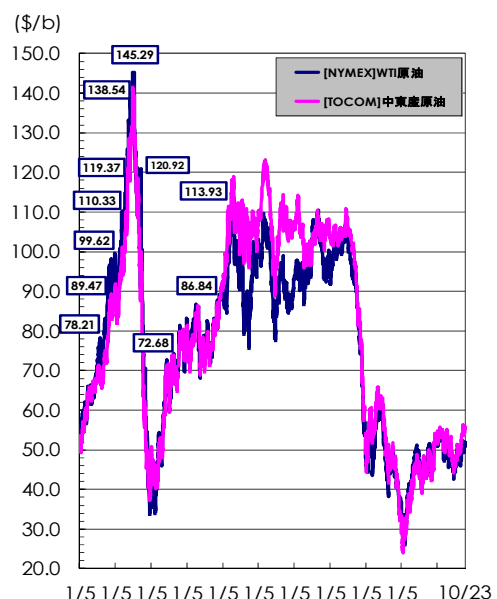
アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週54.90~56.20ドルの範囲で推移した。10月19日56.40ドル、20日55.60ドル、23日56.00ドル、24日55.60ドル、18日は56.30ドルで推移した。

為替は、前週112.08~112.45円の狭い範囲で推移した。10月19日112.99円、20日112.77円、23日113.89円、24日113.37円、25日113.92円で推移した。

主要元売会社の11月第1週に適用する卸価格は、ガソリンが据え置きと0.5~1.0円の値上げ、軽油が0.5~1.0円の値上げ、灯油が1.0~1.5円の値上げにそれぞれ分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートもやや円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、10月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同0.2円の値上がりだった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油は5週連続の値上がりだった。この週（10月第4週）の原油コストは僅かに値上がりしたが、元売の卸価格は、ガソリンは1.0円の値上げ・据え置き・0.5円の値下げに分かれ、軽油と灯油は全社据え置きとなった。

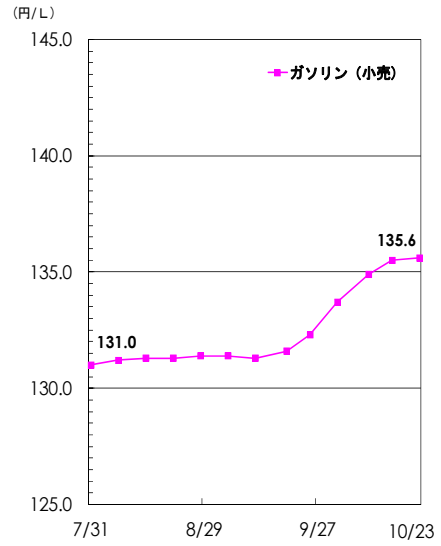
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/15 ~ 10/21	3,171 ▼ -7	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.0 ▼ -0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/21	13,494 ▲ 366	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	10/23	55.32 ▼ -0.18	▲ 6.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	10/23	51.90 ▲ 0.03	▲ 1.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	9月下旬	52.16 ▲ 0.70	▲ 6.64
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	35,928 ▲ 511	▲ 6,758
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.51 ▼ -0.10	▼ -7.64
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/23	114.89 ▼ -1.81	▼ -10.01



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	978 ▼ -8	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	952 ▲ 64	▼ -	
	輸出	"	25 ▼ -17	▲ -	
	在庫	10/21	1,695 ▲ 1	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	53.8 ▼ -0.1	▲ 9.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	54.5 ▲ 0.5	▲ 10.4
		(TOCOM/中部)	10/23	54.5 ▲ 0.3	▲ 11.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	135.6 ▲ 0.1	▲ 9.6	

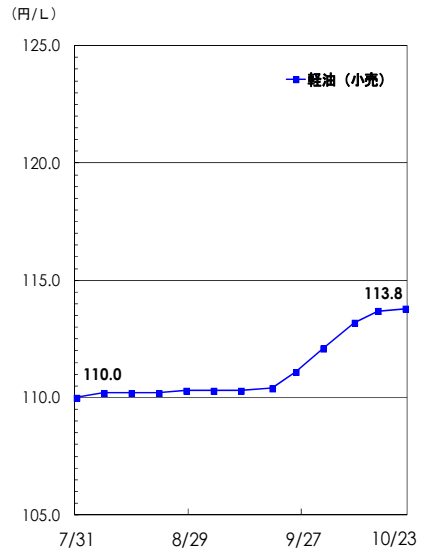
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

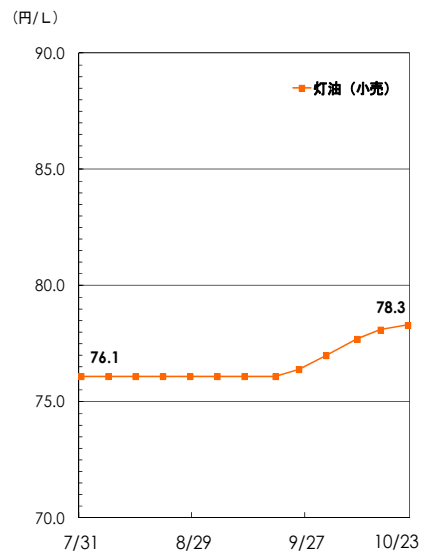
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	723 ▲ 90	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	613 ▲ 18	▼ -	
	輸出	"	147 ▲ 147	▲ -	
	在庫	10/21	1,409 ▼ -37	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	53.2 ▲ 0.0	▲ 11.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	50.2 ▲ 0.2	▲ 9.2
		(TOCOM/中部)	10/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	113.8 ▲ 0.1	▲ 9.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/15 ~ 10/21	239 ▼ -76	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	256 ▲ 68	▲ -	
	輸出	"	50 ▲ 50	▲ -	
	在庫	10/21	2,653 ▼ -68	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/17 ~ 10/23	55.0 ▲ 0.2	▲ 13.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/17 ~ 10/23	55.1 ▲ 0.9	▲ 10.5
		(TOCOM/中部)	10/23	56.0 ▲ 0.9	▲ 12.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/23	78.3 ▲ 0.2	▲ 13.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月25日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、最新週の原油在庫が前週比90万バレル増と市場予想(260万バレル減)に反して積み増しになったこと、前日高値の反動から利益確定売りが続いたことから、4営業日振りに反落した。ただ、EIA在庫週報で、ガソリン在庫は550万バレル減と市場予想(横ばい)に反して取り崩し、中間留分も520万バレル減と市場予想(90万バレル減)を上回る取り崩しとなったこと、前日サウジのファリハ・エネルギー相が、世界石油需要は2050年まで45%増加するとの見通しを述べたこと、ユーロ高・ドル安で

先物原油に割安感が出たことが、下値を支えた。12月限の終値は前日比0.29ドル安の52.18ドル、1月限の終値は前日比0.24ドル安の52.43ドルだった。

EIAによると、10月23日時点のガソリンの小売価格は前週比1.0セント値下がりの1ガロン2.479ドル(75.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.0セント値上がりの2.797ドル(84.8円/ℓ)。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月15日~10月21日に休止したトッパー能力は40.5万バレル/日で、前週に対して1.0万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は317.1万klと、前週に比べ0.7万kl減少。前年に対しては12.0万klの減少。トッパー稼働率は81.0%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては3.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.8%減、ジェット/3.1%減、灯油/24.1%減、軽油/14.3%増、A重油/5.8%減、C重油/4.9%減。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比6.4万kl減)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比14.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、灯油のみが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は95.2万kl(対前週7.2%増)と2週振りで前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット7.7万kl(対前週9.5%減)、灯油25.6万kl(対

前週36.3%増)、軽油61.3万kl(対前週3.0%増)、A重油19.0万kl(対前週9.9%増)、C重油17.7万kl(対前週21.7%減)。

(単位:千KL)

	今週 (10/15 ~ 10/21)	前週 (10/8 ~ 10/14)	前週比	
ガソリン	952	888	▲ 64	(7%)
ジェット燃料	77	85	▼ -8	(-9%)
灯油	256	188	▲ 68	(36%)
軽油	613	595	▲ 18	(3%)
A重油	190	173	▲ 17	(10%)
C重油	177	225	▼ -48	(-21%)
合計	2,265	2,154	▲ 111	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月21日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは1,695.5万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては21.5万kl多い。

灯油は2,653万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては16.3万kl少ない。

軽油は1,409万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては6.2万kl少ない。

A重油は715万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては2.0万kl少ない。

C重油は2,047万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては12.1万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (10/21)	前週 (10/14)	前週比	
ガソリン	1,695	1,694	▲ 1	(0%)
ジェット燃料	981	960	▲ 21	(2%)
灯油	2,653	2,721	▼ -68	(-2%)
軽油	1,409	1,446	▼ -37	(-3%)
A重油	715	731	▼ -16	(-2%)
C重油	2,047	2,046	▲ 1	(0%)
合計	9,500	9,598	▼ -98	(-1.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月17日から23日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートはやや円安で、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107円台で横ばい、軽油53円台で強含み、灯油54~55円台でほぼ横ばいに推移した。

海上スポット価格は、ガソリン108~110円台で大きく値上がり、軽油54~56円台で堅調、灯油54~55円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン108円台でわずかに上下し、軽油50~51円台で値上がり、灯油54~55円台で堅調に推移した。元売の卸価格は、ガソリンが据え置きと0.5~1.0円、軽油は0.5~1.0円、灯油は1.0~1.5円の値上げにそれぞれ分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月17日から10月23日の原油コストは値上がりしたが、製品スポット市況は、陸上と海上のガソリンが値下がり、陸上軽油が横ばいになった以外は、各油種で値上りした。

11月第1週(10月26日~11月1日)適用の元売卸価格(10月17日~23日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円の値下がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。原油価格は僅かに値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは僅かに値上がりだった。

11月第1週の大手元売の卸価格は、据え置き、0.5円ないし1.0円値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (10/17 ~ 10/23)	前週 (10/10 ~ 10/16)	前週比
スポット 価格	レギュラー	53.8	53.9	▼ -0.1
	灯油	55.0	54.8	▲ 0.2
	軽油	53.2	53.2	→ 0.0

[期近物/終値] [平均]		今週 (10/17 ~ 10/23)	前週 (10/10 ~ 10/16)	前週比
先物 価格	レギュラー	54.5	54.0	▲ 0.5
	灯油	55.1	54.2	▲ 0.9
	軽油	50.2	50.0	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	▲ 0.5	▲ 0.2
灯油	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.6
軽油	→ 0.0	▲ 0.2	▲ 0.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の135.6円を付け本年最高値を3週連続で記録、軽油は同0.1円高の113.8円、灯油は同0.2円高の78.3円だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油は5週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは24道府県で、横ばいは15道府県、値下がりの県は8県だった。全国最安値は埼玉県(同0.2円高)、次が千葉県(同0.2円高)、最高値は沖縄県の144.7円(同0.2円安)だった。最も値上がりしたのは、1.5円高の岡山県(134.9円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりしたが、元売会社の卸価格は値下げ、据え置き、値下げと分かれたが、9月中旬

以降の原油コスト上昇に伴う過去の卸売り値上げ分の転嫁が進み、6週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートもやや円安で、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリンが据え置きと0.5~1.0円、軽油は0.5~1.0円、灯油は1.0~1.5円の値上げにそれぞれ分かれた。次週(10月30日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

[週動向]		今週 (10/23)	前週 (10/16)	前週比	直近高値	
小売 価格	レギュラー	135.6	135.5	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	78.3	78.1	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	113.8	113.7	▲ 0.1	08/8/4	167.4

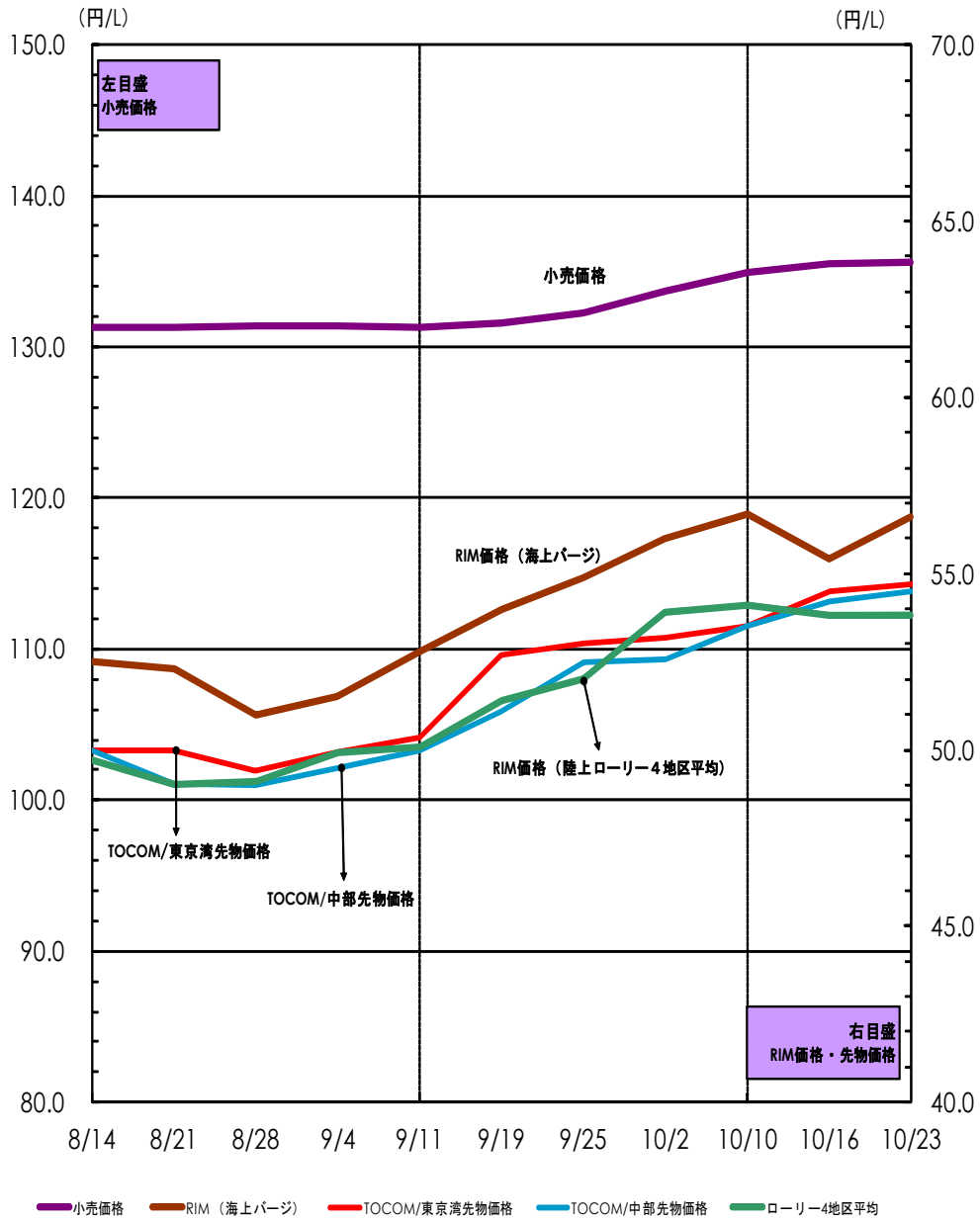
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/8/14 ~ 2017/10/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第29号)の公表は、11/3(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。